

氏名	高崎 博司	部署	理学療法学科	職名	准教授
研究分野	運動器理学療法				
学位	博士（理学療法学）				
学歴	2004年札幌医科大学理学療法学科、6年札幌医科大学大学院修士課程保健医療学研究科徒手療法学				
経歴	2013年クイーンズランド大学博士研究員、14年埼玉県立大学理学療法学科講師、17年埼玉県立大学理学療法学科准教授				
所属学会（役職）	日本理学療法士協会、日本整形外科スポーツ医学会、日本徒手理学療法学会（理事）、埼玉アスレチックリハビリテーション研究会（理事）、専門リハビリテーション研究会				

【2023年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月	
1	該当なし						
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	Predictors of 1-year Perceived Recovery, Absenteeism, and Expenses due to Low Back Pain in Workers Receiving Mechanical Diagnosis and Therapy: A Prospective Cohort Study.	単著	あり	○	Healthcare; 11(9); P.1293	Takasaki H	2023.4
2	Research activities contributing to evidence-based practice implementation in Japanese rehabilitation professionals.	共著	あり		J Phys Ther Sci; 35(5); P.340-345	Mizuno H, Ueno T, Takasaki H	2023.5
3	Cross-cultural Adaptation of the Pain Understanding and Confidence Questionnaire into Japanese	共著	あり		J Phys Ther Sci; 35(9); P.624-627	Takeuchi R, Sugiura S, Miki T, Chiba H, Handa Y, Takasaki H	2023.9
4	腰痛の際に患者は理学療法士に何を求め、どのような腰痛に対するセルフマネジメントをしているか？：半構造化インタビューを用いた主題分析	共著	あり		徒手理学療法; 23(2); P.113-119	伊藤晴紀, 千葉弘樹, 半田裕介, 北村智也, 竹内梨都子, 高崎博司	2023.10
5	日本語版 Lumbar Spine Instability Questionnaire の信頼性と主成分分析	共著	あり		徒手理学療法; 23(2); P.105-111	倉田健太郎, 三木貴弘, 近藤湧, 高崎博司	2023.10
6	Developing a final format of a patient-reported outcome measure for disability in daily living due to stiff neck/shoulders, Katakori Disability Index, through internal structure assessments. 信頼性と主成分分析	単著	あり	○	Musculoskeletal Care; P.e1861	Takasaki H	2024.1
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	頸部有症者においてランバーロールの有無で長時間のタイピングタスク中の頭頸部姿勢に違いが出るか？：無作為クロスオーバー試験	共同		第28回日本徒手理学療法学会・川越市	北村智也○・高崎博司	2023.8	

2	筋骨格系疼痛を有する労働者において、指導下での運動療法は指導下ではないセルフケアよりもプレゼンティーズムを改善する：メタ分析によるシステマティックレビュー	共同	第134回理学療法科学学会学術大会・大川市	小澤遥○・高崎博司	2023.9
3	Active straight leg raising (ASLR) competence improves with reverse-ASLR exercises and not repeating ASLR exercises: An assessor blinded, randomized controlled trial	単独	11th Interdisciplinary World Congress on Low Back & Pelvic Girdle Pain・メルボルン	高崎博司○	2023.11
4	コリジョンスポーツにおける負傷と欠場に関わるプレシーズン予測因子: システマティックレビュー	共同	第138回理学療法科学学会学術大会・成田市	北村智也○・高崎博司	2024.2

(4) その他

	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし				

2. 競争的資金等の研究

	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	科研費・基盤C	労働損失予防戦略の革命に向けた頸部有症在宅勤務者に対するマッケンジー法の遠隔応用	研究代表者	2023.4～2027.3
2	埼玉県立大学・奨励研究	患部である膝ではなく腰椎を反らす運動療法による疼痛抑制効果の解明	研究代表者	2023.4～2024.1

3. 教育業績

(1) 講義

	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	運動器障害治療学特論（大学院）	○	15	運動器理学療法マネジメントに関する最新知見を紹介した
2	理学療法研究法		2.5	研究倫理申請書の書き方を指導した

(2) 演習

	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	臨床推論演習	○	8	クリニカルリーズニングについて講義・演習を行った
2	徒手理学療法学	○	8	徒手療法テクニックの演習を行った
3	臨床推論実習	○	30	Evidence-Based Practiceとクリニカルリーズニングについて講義・演習を行った
4	理学療法応用技術学F（特殊テクニック）	○	8	Pain neuroscience educationや特殊なテーピング、運動療法、徒手技術の指導をした
5	理学療法セミナー（OSCE1）		8	OSCEに向けた演習と試験を行った
6	理学療法セミナー（OSCE2）		8	OSCEに向けた演習と試験を行った
7	リハビリテーション学演習（運動器障害治療学）（大学院）	○	30	運動器理学療法マネジメントの方法を演習した
8	IPWシステム開発論2（大学院）		2	臨床診療ガイドラインと質問紙の作成方法を指導した
9	リハビリテーション教育学I（大学院）		1	海外での教育例を紹介した

(3) 実習

	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	IPW実習		2023.4～2023.10	オンラインで課題のファシリテーターをした
2	臨床教育実習I		2024.2～2024.3	学生評価と実習後の振り返りを行った

3	臨床教育実習II		2023.9～2023.10	実習地訪問、学生評価、実習後の振り返りを行った	
4	臨床教育実習III		2023.4～2023.6	実習地訪問、学生評価、実習後の振り返りを行った	
5	臨床教育実習IV		2023.7～2023.8	実習地訪問、学生評価、実習後の振り返りを行った	
(4) 論文指導					
	対象		期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文		2023.4～2024.3	主指導 10名	副指導 名
2	修士論文		2023.4～2024.3	主指導 (指導教員) 2名	副指導 (指導補助教員) 名
3	博士論文		2023.4～2024.3	主指導 (指導教員) 1名	副指導 (指導補助教員) 名
(5) その他					
	名称		期間	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)	
1	東京工科大学 非常勤講師		2023.10	マッケンジー法の概要を解説した	
4. 社会貢献活動					
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師					
	講演会、研修会、公開講座等の名称		主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	第22回専門リハビリテーション研究会学術大会		第22回専門リハビリテーション研究会学術大会	リハビリテーション専門職におけるEBMをこれからどうする？	2023.7
2	2024年度臨床教育実習受け入れ施設対象講習会		埼玉県立大学理学療法学科	四肢に放散する痛みの鑑別と仙腸関節障害の鑑別	2023.8
3	第134回理学療法科学学会学術大会		第134回理学療法科学学会学術大会	Best Musculoskeletal physiotherapyとは…	2023.9
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等					
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称		任期
1	埼玉県理学療法士会		国際スポーツ競技対策委員		2016.10～現在
2	The McKenzie Institute International		MII Research Advisory Committee		2017.1～現在
3	日本徒手理学療法学会		理事		2017.4～現在
4	埼玉アスレチックリハビリテーション研究会		理事		2017.4～現在
5	日本徒手理学療法学会		徒手理学療法雑誌編集委員		2018.4～現在
6	専門リハビリテーション研究会		EBP研究推進部 部長		2020.4～現在
7	第10回日本スポーツ理学療法学術大会		学術局委員		2023.4～2024.2
(3) ジャーナリズムでの発言					
	メディア等の名称		内容		年月
1	該当なし				
(4) その他					
	項目	相手方等	内容		期間
1	国際協力事業	Musculoskeletal Science and Practice	論文の査読		2019.4～現在
2	国際協力事業	BMC Musculoskeletal Disorders	論文の査読		2023.4～現在
3	国際協力事業	PlosOne	論文の査読		2023.4～現在
4	地域貢献活動	第101回全日本ローイング選手権大会	メディカルスタッフ		2023.5
5	地域貢献活動	第63回オックスフォード盾レガッタ	メディカルスタッフ		2023.9
5. 学内運営					
	項目	内容			期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	国際交流委員			2020.4～2024.3
2	学科等における委員会等	学生支援委員会			2022.4～2024.3
3	学生支援	IPW 科目責任者会			2023.3～2024.3

6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	学術大会長賞	第28回日本徒手理学療法学会	2023.7.21
2	学術大会長賞	第138回理学療法科学学会学術大会	2024.2.25
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		